

[所 感]

長崎市議会議員 板坂 博之

福州市との友好都市 30 周年を迎えることを記念して親善訪問団 96 名（公式訪問団 38 名・市民訪問団 20 名・経済訪問団 38 名）の一員として福州市友好都市提携 30 周年記念公式訪問団に参加させていただいたが、今回の福州市訪問により、私は、これまでの両市の交流の歴史を振り返るとともに、今後の両市の更なる相互交流を再確認し、相互理解を深めることができたのではないかと思う。

特に、今回は初めて、経済訪問団の 38 名が市長等の公式訪問団と一体になって福州市を訪問することになり、私を含めて 4 名の市議員も経済交流団と共同で、福州市の経済的な面から、さまざまな交流をすることができて大変有意義であった。

なかでも香港で活躍されている川副哲氏の講演をきくことができ、今後、日本企業が中国に進出する場合のビジネス環境やリスク等について理解を深めることができ非常に参考になった。

また、今回、現地に実際に進出している日系企業の幹部の皆さんとも意見交換をすることができ、中国に進出した時の当時の苦労話なども聞くことができるなど、地元日系企業との生の経済交流ができたと思う。

しかしながら、長崎市の中小企業が現実的に中国に進出することは、現地の日系企業の幹部の話を聞いてみたところ、あまりにも多くのリスクや問題点等があり、現実的には厳しいのではないかと率直に感じたところである。

最後になるが、長崎・福州両市が今後とも人的・経済的にさらに相互の交流が深まることを祈念して私の所感としたい。